

テーマ/女性の働き方

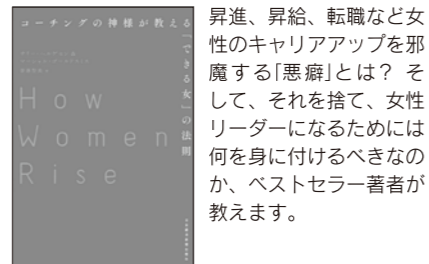
貸し出しBEST 5

- 1位 70歳のたしなみ
坂東 真理子/著(小学館)
- 2位 フーガはユーガ
伊坂 幸太郎/著(実業之日本社)
- 3位 女50歳から100歳人生の生き方
小島 貴子/著(さくら舎)
- 4位 これはしない、あれはする
小林 照子/著(サンマーク出版)
- 5位 対岸の家事
朱野 陽子/著(講談社)

パレア9階情報ライブラリーでは、男女共同参画、生涯学習、NPOに関する図書などの貸し出しを行っています。ぜひ気軽にお立ち寄りください。

コーチングの神様が教える「できる女」の法則

サリー・ヘルゲセン、マーシャル・ゴールドスミス(著) 斎藤聖美(訳) 日本経済新聞出版社 出版



昇進、昇給、転職など女性のキャリアアップを邪魔する「悪癖」とは？そして、それを捨て、女性リーダーになるためには何を身に付けるべきなのか、ベストセラー著者が教えます。

働く女の腹の底 多様化する生き方・考え方

博報堂キャリアリゾ研(著) 光文社新書 出版



現代の働く女性たちは何を考え、どう生きているのか？キャリアを持ちながら、独身で子どもがいない、いわゆる「キャリアジョ」に焦点を当て、彼女たちの思考と行動に迫ります。

男女共同参画 in パレア マインドアップセミナー②

未来のあなた、イキイキと働いていますか？

FUTURE TALK

就職活動を前にした大学生を対象に、自分らしい働き方について考えるセミナーを10月19日、くまもと県民交流館パレアで開催しました(共催:大学コンソーシアム熊本)。当日は、県内に拠点を置く3社のパネリストが約30人の参加者に向けて、自身の経験を話し、さまざまなアドバイスをしました。



就職活動を前にした大学生を対象に、自分らしい働き方について考えるセミナーを10月19日、くまもと県民交流館パレアで開催しました(共催:大学コンソーシアム熊本)。当日は、県内に拠点を置く3社のパネリストが約30人の参加者に向けて、自身の経験を話し、さまざまなアドバイスをしました。

第1部は、株式会社鶴屋百貨店の前田咲子さん、シタテル株式会社の鶴征二さん、白鷺電気工業株式会社の近藤千裕さんが登壇し、それぞれの働き方を紹介しました。子育てしながら働く前田さんは、さまざまな部門でキャリアを重ね、また、会社の保育園や時短勤務などの制度を利用して、「自分らしく働く」ことを実践中です。鶴さんは、テレワークなど柔軟な働き方を取り入れ、労働時間の長さではなく、その人が生み出したものの価値や成果で評価するという会社の経営陣として、効率的な働き方を実践。プライベートでは、共働き家庭で育児を分担しています。社内でもただ一人の女性技術者である近藤さんは、参加者と同世代。仕事をしながらの葛藤や、休暇の過ごし方などざっくばらんに話してくれました。「世間的には女性だったから事務という考えが根深くあり、工事にほとんど女性はいない。私は女性でも何でもできることを証明したい。もっと女性に知ってほしい。女性が現場にいたらもっと良くなる」と訴えました。

三者三様の生き方、働き方

ことですか?」など、率直な質問を投げかけていました。

自分と向き合う

第2部は、くまもと県民交流館館長の藤井有貴子が、キャリアプランを考えるにあたり、自分を振り返るシート作りについて紹介。「特に女性には結婚・出産すると、何かを考える際に、家族を優先してしまい、自分を中心にもう一度考えない癖がつきがち。自分のこれからの考える時は、自分を軸にして考えることが大切」と話しました。参加した学生からは、「考え方が広がりました」「リアルな現場の意見を聞くことができ、就職活動をする際、何を重要視するかをしっかりと考えていこうと思いました」など前向きな声が多く聞かれました。

DATA
日時:2019年10月19日(土) 13:30~16:00

内容:第1部 パネルトーク
「先輩に聞く!自分らしく働き、生きること」
登壇企業:株式会社鶴屋百貨店/シタテル株式会社/白鷺電気工業株式会社(順不同)

第2部 グループワーク
「自分のことをもっと知って、自分らしい働き方を考えよう」
ファシリテーター 藤井有貴子
(くまもと県民交流館館長/キャリアコンサルタント)

「四賢婦人物語」に学ぶ

~時代を切り開いた矢嶋姉妹 その④

文・齊藤 輝代

男女の別なく全てのの人に柔軟な働き方を認める組織を

育児中の女性が職場で活躍の場から遠ざけられる状況などを見聞きするたびに、徳富初子の果敢な生きざまを思い起します。

初子は四賢婦人の一人、徳富久子の四女として1860年に水俣に生まれました。男児を産めない嫁は離婚という時代。幸い長男蘇峰が誕生し、母、久子は離婚されずに済んだのです。初子にとって「自分は望まない女児」という思いは、叔母矢嶋楯子の生い立ちと共通していました。明治9年、初子は16歳で上京し、楯子の下宿に一月間同居しました。二度目の上京の時、初子は25歳。多くの縁談を断り、独身を決意しての上京でした。桜井女学校で看護法や幼児教育について学びながら、楯子の矯風会交頭就任を支えました。明治18年、26歳の初子は妻を亡くし4人の子の父親だった湯浅治郎と結婚し、19歳から1歳の子の養母となります。夫は日本で最初に「産婦運動を進めた政治家であり、同志で



さいとう・てるよ 益城町在住。2014年度「熊本県民文芸賞」一席受賞。2015年「短編小説集百年の綿菓子」出版。2016年「第1回安川電機九州文学賞」大賞受賞。2018年「まんが四賢婦人物語」出版(原作者)。

た。初子は矯風会で働き、夫の仕事を支えるなど多忙な日々を送ります。義理の子らと7人のわが子とを育てるために、仲間と共に自家に幼稚園を開きます。慣習にとらわれず、女性が柔軟に働ける環境づくりを初子夫婦は明治時代に実践したのです。家事・育児を夫婦で分担するのは共働きの大前提です。わが家の子育ての頃は買い物や掃除、子どもの突然の熱発の時は、時間休を取りやすい夫が対応しました。できる方がやるというのが唯一の約束事でした。働く女性が3千万人を超える現代。性別や子育ての有無にかかわらず、全ての人各自が合った働き方を選べる仕組みが待たれます。



「徳富初子(写真提供:同志社大学同志社史資料センター)」

*矯風会…禁酒運動をもとにアメリカで設立されたキリスト教の婦人団体を、矢嶋楯子らが明治19年に日本で組織。世界の平和、性の尊厳と人権の保護、未成年者の禁煙・禁酒を活動目標とする。

男女共同参画 in パレア 男女共同参画センター自主事業 働くママを応援! パパとたのしくクッキング!!



DATA
日時:2019年10月6日(日) 10:00~13:00
講師:水野 直樹氏 (PaPaラボ代表、日本パパ料理協会 公認・肥後パパ料理の会 飯士)

父親の家事参加で母親が働きやすい社会へ 日本テトラパック株式会社と特定非営利活動法人全国女性会館協議会の助成を受け、山鹿市と共催で「働くママを応援! パパとたのしくクッキング!!」を10月6日、山鹿市の山鹿健康福祉センターで開催しました。働く母親の家事負担を軽減するため、父親や子どもの家事参加を促進する取り組みです。県内在住の11組23人の父子が、講師の水野直樹さんの進行のもと、サラダやパンングラタンなど家庭でも簡単に作れる3品に挑戦しました。包丁に慣れない子どもたちは、野菜を切るのに大苦戦。父親がお手本を見せ、後ろからサポートしながら、子どもとの調理を楽しんでいました。野菜嫌いな子どもがサラダをもりもり食べるなど、父子ともに、自分で作った料理にご満悦。「協力しておいしい料理ができて楽しかった」「家でも作ってみたい」などの感想が寄せられました。